

氏名： 元岡 展久 (MOTOOKA Nobuhisa)
所属： 人間文化創成科学研究科自然・応用科学系
学位： 博士 (工学)
職名： 准教授
専門分野： 建築設計学、建築意匠・歴史
URL： <http://www.eng.ocha.ac.jp/architecture/motookastudio/index.html>
E-mail： motooka.nobuhisa@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

18世紀建築史／建築教育／近代住宅論／建築表現論／ブルーノ・タウト研究
History of Architecture in the 18th Century / Education of Architecture /
Modern Individual House Design / Representation of Architecture / Bruno TAUT

◆主要業績

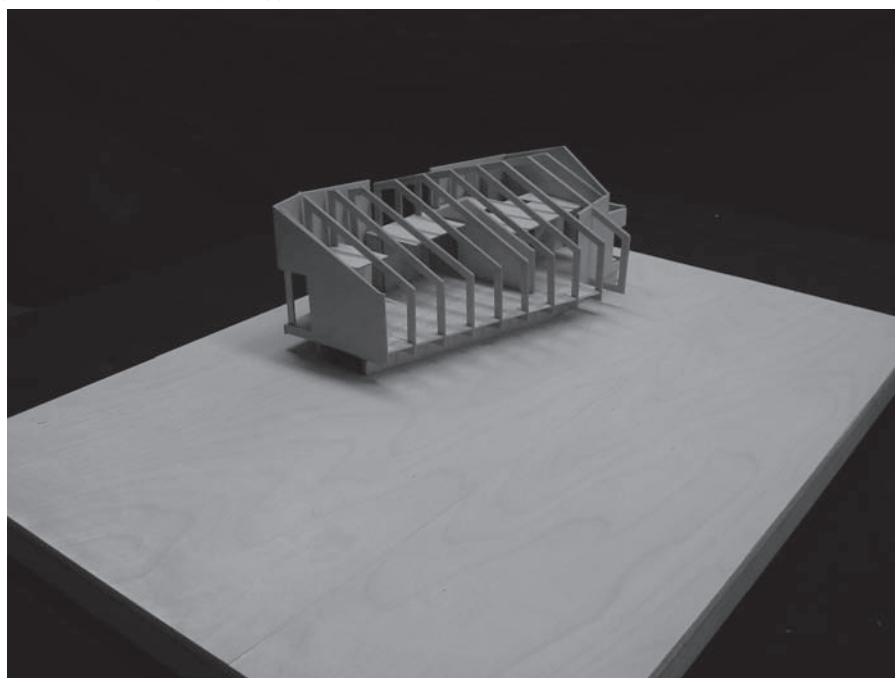
- ・建築作品の基本設計ならびに実施設計『桜山のカフェ』, 元岡展久 + 福田洋子設計, 愛知県名古屋市
- ・秋山信彦、稲山正弘、元岡展久、他『スギ3層パネルによる梁部材のモーメント抵抗接合部の曲げ試験』、第58回日本木材学会大会(つくば)、2008.03
- ・『みんなのスマートハウスみんなでデザイン』公開セミナー発表、ヒューマンインタフェース学会 SIGUBI 研究談話会、2007.09
- ・『ユビキタスコンピューティングは生活を変えるか』公開セミナー企画、実施、司会、お茶の水女子大学本館2階209講義室、2007.11

◆研究内容 / Research Pursuits

「建築設計」に関する理論、手法、教育について、18、19世紀西欧の建築を中心に研究をおこなっている。建築家が設計する際に描く様々な図面を分析し、これらと実際に建てられた建築物や、出版された理論等と比較することで、設計過程において空間を「描く」行為の意味を分析している。こうした「建築設計」についての研究成果を、教育に反映させると同時に、実際の建築物の設計においても実践している。具体的な設計では、名古屋市の狭小敷地にカフェを併設した住宅を計画した。また、ユビキタス・コンピュータを応用した実験住宅についても取り組んでおり、新たな木質構造をもちいて、実験住宅を設計している。この実験住宅は2008年度に完成予定である。

Theories and design techniques on architecture in 18th and 19th centuries' Europe are my current research themes. By comparing architectural theories and educational systems with concrete building works of these periods, I analyze the significance of "drawing" in the creation process of architecture.

At the same time, based on the result of these studies, I practice design skills in proper building construction. Last year, I designed a house+cafe in Nagoya. I am also undertaking an ubiquitous-computing house project which will be realized in 2008.



◆教育内容 / Educational Pursuits

学部教育：

建築分野の学問は多岐にわたる。したがって建築に関する教育は、自らの研究分野のみならず、幅広い分野での講義ならびに実習が必要となる。本学科カリキュラムにおける「居住環境学」「建築物理学」などの建築学関連授業では、幅広い領域をカバーするよう、建築構造、計画、環境、意匠の体系にそった講義をおこなった。「住居学概論」では、図面製図、住まい方調査などの実習を取り入れた授業をおこなった。また、人間・環境科学実験実習では、大手ゼネコンの技術研究所の協力のもとに、構造材料実験の内容を整備した。

卒論指導：

5名の学生の卒業論文指導をおこなった。それぞれ、「外部空間における着座に関する研究」「タンザニア連合共和国の学校建設」「ドイツのジードルンクの変遷に関する比較研究」「国産杉3層クロスパネルを用いた木質ラーメン構造の有用性」「かみのやま温泉における観光客の景観評価についての実証的研究」というテーマで論文を指導した。

UNDERGRADUATE EDUCATION

For architectural education includes a large field of studies, lectures and practices of a wide domain are necessary. In the class of "Introduction to Housing", basic architectural and urban problems are lectured, including house design practices. In the other 3 lecture courses that I had in 2007, I concentrated mainly on the categories below: architectural structure, architectural planning, environmental engineering, and architectural design.

GRADUATION THESIS

Five students conducted their researches under my direction. Their thesis' titles are: "Outer Space Sitting", "School Construction in United Republic of Tanzania", "Comparative Study on Transition of Siedlung in Germany", "The Usefulness of Timber Frame Structure Using Three-cross-layered Panels of Japanese Cedar", and "An Empirical Study on Landscape Evaluation for Tourists in Kaminoyama Onsen".

◆研究計画

「建築設計」に関する理論、手法、教育についての研究は、いわば人々が建築をどのようにとらえ、何をもとに設計していたかという点を明らかにすることである。

- 1) 「建築の形態分析」では、建築家のデッサンや、実作品に現れた形態を調査比較し、建築家が空間を創造する際の思考や手法を解析する。
- 2) 建築を専門にしない市民や子供たちを対象とした「住育」に関する国際比較調査から、「住育」教材開発を試みる。
- 3) 近代の都市小住宅空間についての研究をおこない、その研究成果から具体的な住宅設計を実践し、社会への関わりを積極的に進める。

現在、共同研究を行っているテーマ、ならびに共同研究、受託研究が可能なテーマとして、主として以下のものがあげられる。

木造建築の構法開発（古材、間伐材を利用した住宅建設技術）ならびに、木造住宅の設計

子供の「住育」の国際比較、ならびに子供の環境教育用教材開発

ブルーノ・タウトの住宅に関する研究（実測調査、ならびに保存についての検討）

ユビキタス・コンピュータを応用した未来住宅の提案と設計

◆メッセージ

元岡研究室は、建築や都市の空間のデザインを専門とする研究室です。美しい空間とはどういう空間なのでしょう。建築にあらわれた「かたち」は、どんな意味を持っているのでしょうか。建築を設計する際に、何をどのように考え、どのようにデザインしていくべきなのでしょう。過去の建築から現代の建築にいたるまで、様々な作品を対象に実例を分析し、作品にある美の根拠を探っていきます。巨匠建築家の作品についても分析し、具体的な作品にあらわれた「かたち」から、その設計の思想や設計の手法を考察していきます。こうした研究の成果を、自らの建築やインテリアの設計へとつなげ、社会のなかで建築デザインを実践することを目指しています。